

名前 三谷和臣 定住年数 2年

Iターン（生まれは三次）

居住地 広島市・吉舎町丸田



1 移住を決めたのは

ふだんは広島市に在住しており、IT 関連企業に勤めながら、週末は空き家バンクを通じて紹介いただいた古民家との二拠点生活を送っています。田舎での原体験（田園回帰）が原点にあり、親戚・知人などが集まれる場、自己実現する場がほしいという家族共通の想いがありました。内見時、印象的な納屋と土間、裏山があるなど条件がマッチしていることから購入を即決しました。吉舎は山に囲まれた田園地帯でおだやかに過ごすには理想的な場所です。

2 ここに住むことは

古民家の再生を通じて、様々な体験をしました。例えば、改修のために床を撤去すると、囲炉裏が現れました。それを利用しない手はないと残しました。納屋に残された古民具から昔と現在の生活を対比すると、現在の経済・資源の循環がいかに外部に依存しているかがわかります。もともと趣味の登山の延長で学び直した大学院では、自然や田園風景などお金に換算できない価値について評価する手法を研究していました。放置空き家の増加、山林化して緩衝帯が失われた里山では、獣害が社会問題となっています。古民家改修、里山整備を進めながら、ピザ窯や古瓦・石臼を利用した坪庭作り、セミナー、BBQ・餅つきなどを行ってきました。ライブラリやギャラリーを開設。オーディオルームは父親の長年の夢を叶えました。ここを SATOYAMA Lab.として里山ライフを実践していこうと思っています。

3 暮らしを支えるもの

集落支援員さんが気遣って寄ってくださり、欲しい古道具などを取り寄せてくださいました。SNSで日々の出来事を発信されていますので、遠隔でも吉舎で起きていることがリアルタイムにわかります。古民家に対する周りの人の関心は高く、見学などお声かけいただくこともあります。何より日常では得られない知識・知恵が自分のものになることが財産であり支えになっています。

4 移住を考えている人へ

空き家を購入し定住するということは、コミュニティに入り、資産を所有することになるため難しい決断になると思います。不動産登記などの手続き、不要品の片付けやリフォームをして現在に至っていますが、周りにはノウハウを持った方がいますし、いろいろな課題を自分で解決していく楽しみも移住生活の醍醐味です。